



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和5年7月20日(木)
兵庫県立八鹿高等学校
校長 山本 宏治

8

令和5年7月13日(木) 芸術鑑賞会の開会にあたり、次の話をしました。

「コミュニケーションを成立させるのは受け手である。」これは、マネジメントの父と呼ばれる経営思想家、ピーター・ドラッカーの言葉です。内容やメッセージを送る人がコミュニケーションを成立させているのではなくて、それを受け取る人がどう受け取るかによってコミュニケーションの成否は決まる、という意味であると思います。

さて、落語という、日本にしかない芸術(アート)を通じて、今日はプロの噺家の方々が皆さんに大切なメッセージをたくさん送ってくださいます。中でも笑福亭鶴笑師匠は、皆さんの大先輩、八鹿高校の卒業生です。

ドラッカーの言葉をふまえるならば、今から皆さんが共有する時間と空間の中で、主役となるのは聞き手である生徒の皆さんです。皆さんが何を、どう受け止めるかがきわめて大切になってくるのですね。このあと、この空間に、おだやかでしっとりとしたコミュニケーションが満ちあふれることを確信しています。

さあ、会の始まりです。主役は、皆さんです!!

補足します。

この日の会を通じて、鶴笑師匠から、「人を傷つけたりおとしめたりする笑いではなく、真に人々が幸せになれる笑いについて考えましょう」というメッセージを届けていただいたと思います。

コミュニケーションを成立させているのはメッセージの送り手ではなく受け手である、と考えるならば、送りには「受け手がどう受け取るかも含めて目配り、心配りをする責任がある」とは言えないでしょうか。いじめやハラスメントなどの社会的問題の背景には、送り手としての責任を果たしていないメッセージの発信、あるいはその責任を放棄してしまった情報発信、といったものがあるように思えてなりません。あらためて、「個性は、心ありてこそ輝く」ということを生徒の皆さんに伝えたいと思います。